

新体制についての紹介

院長 光定 誠 (ミツサダ マコト)



このたび川上前病院長が退任され、4月1日より着任致しましたのでご挨拶申し上げます。自己紹介としましては和歌山県生まれ、東京育ちです。自治医科大学卒業後は都立駒込病院で研修し、その後東京都の僻地である小笠原諸島の父島や伊豆大島でも勤務致しました。また広尾病院では20年以上にわたり消化器外科や救命救急センターで消化器癌や急性腹症の手術及び重症外傷診療に従事してまいりました。練馬光が丘病院には日本大学から運営移行した平成24年の7月から勤務しております。これまで地域住民の皆様方、医師会や医療関係者の皆様には区関係者の方々とともに区内の災害対策の会議や救護所訓練などの現場でご一緒する機会も多く、大変お世話になってまいりました。

さて当院が所属する公益社団法人地域医療振興協会は「地域の医療の確保と質の向上を図り、もって地域の振興を図ること」を目的として設立され、当院は「皆様とともに地域の発展に貢献します」という理念のもとに救急、小児、周産期、災害時医療を中心に、練馬区や区西北部エリアを中心とした地域の急性期医療の充実にこれまで努めてまいりました。これまで少しずつではありますが地域の皆様のご要望に応えられるように活動範囲を拡大してきております。

当院における今年度の新たなビジョンと致しましては①総合診療と専門診療は両輪・両方の充実をはかる、②患者さま中心の医療を徹底する、③滞りなく新病院の開設準備を進める、の3点となっております。①につきましては、当院で総合診療を担うのは総合診療科や救急集中治療科及び小児科です。疾患や臓器別に捉われず総合的かつ系統的に診療します。救急での初期対応においては、まず全身状態の安定化をはかり、その後の集中治療や総合診療にシームレスに移行できる体制となっています。また専門診療につきましては循環器、呼吸器、消化器の各センターを始め、それぞれの診療科で種々の急性及び慢性疾患について、より深く掘り下げて専門的に対処いたします。特に循環器領域では急性大動脈疾患をはじめ心筋梗塞や狭心症、呼吸器では慢性閉塞性肺疾患などの対応症例数が増加しております。また大腸がんや肺がん、乳がん、泌尿器領域がんなどを始め、各領域の癌や悪性腫瘍の治療・手術件数も増加しています。その治療については内視鏡や胸腔鏡、腹腔鏡といった各種の体に優しい方法、低侵襲手術を駆使しており、今後はさらに力を入れていく予定です。②の患者さま中心の医療につきましてはスタッフのさらなる充実と十分な医療安全の確保に裏打ちされるものと考えており、日々の改善のために職員一同で精一杯努力致してまいります。また③の新病院につきまして計画の詳細を皆様にご説明させて頂く機会を早々に設ける予定となっておりますので、なにとぞ宜しくお願い致します。

今後は益々、住民の皆様や周辺医療機関等との連携を密にして、地域の医療ニーズにより一層応えられるように、また医療サービスや災害対応が向上できるように努力してまいります。

時々ERや外科外来でも勤務しておりますので、お気軽に声をかけて頂ければと思います。どうぞよろしくお願い致します！

看護部 部長 大城 優子 (オオシロ ユウコ)



皆様はじめまして。
平成31年4月1日に看護部長に着任いたしました大城優子と申します。私は練馬区民になって21年が経とうとしています。7年前、練馬区のこの地に病院がなくなるかもしれないということに、子供や親と一緒に暮らす者として大きな不安を覚えました。何か力にならないだろうかと思ひながら考え資格をいかし、開院年度から看護師として勤務しております。開院から7年間「豊かな感性と思いやりの心で満足して頂ける看護を提供いたします」の看護部理念のもと、急性期病院として安全で安心な医療・看護の提供を第一に考え、地域の皆様に満足していただける看護の提供を行うことが出来るよう取り組んできました。そして、当院の基本方針である急性期医療・小児医療・周産期医療・災害時医療が行える看護専門職として地域のニーズに対応できる看護師の育成を目指し、各種キャリア支援制度を整え、看護師個々のキャリアアップを支援してきました。これらのことを重点におきながら、地域の皆様に信頼される病院づくり、皆様に寄り添える看護をスタッフ一同力を合せて実践してまいりますので、今後ともさらなる御指導、御支援をお願い申し上げます。

新任医師の紹介 ①

乳腺外科 部長 平田 勝 (ヒラタ マサル)



初めまして。平成31年4月1日より練馬光が丘病院乳腺外科に赴任しました、平田勝と申します。3月31日までは、新宿にあるJR東京総合病院乳腺外科に勤務していました。女性のライフスタイルの変化とともに、乳がんの患者さまの数は世界的に増加しています。日本においても乳がん患者数は増加しており、その平均年齢は50歳前後とされ、胃がん・大腸がんと比較しても若いことが特徴のひとつです。一方で、他の医学領域と同様に、がん治療の進歩は目覚ましいものがあります。現在乳がんに対する治療は、手術治療・ホルモン療法・放射線治療・化学療法・分子標的薬療法をsubtypeに合わせて適切に組み合わせで行っています。さらに近い将来には、再発患者さまの一部に対し、免疫療法も保険適応となるみこみとされています。また遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診断のためのBRCA遺伝子検査も再発患者さまの一部に対し、すでに保険適応となっています。特に、30歳代以下の乳がん患者さまに対しては、乳がん治療終了後の妊娠・出産について最大限配慮することも求められています。患者さまおひとりおひとりに合わせて、適切な治療を受けていただけるように努力していきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合診療科/救急・集中治療科 科長 片岡 惇 (カタオカ ジュン)

初めまして。本年度より練馬光が丘病院に赴任しました片岡惇と申します。前年度までは同じ協会内の東京ベイ・浦安市川医療センターで集中治療医、呼吸器内科医として勤務しておりました。集中治療の専門家として、重症化してしまった患者さまを一人で多く救えるよう尽力いたします。よろしく申し上げます。

総合診療科 楠 貴之 (クスノキ アツユキ)

はじめまして。総合診療科・楠貴之と申します。3月まで、鴨川の亀田総合病院で総合内科医として働いておりました。地域の皆様が健康にお過ごしいただけるよう、お手伝いできればと思います。また、後進の教育にも力を入れていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合診療科 横山 和久 (ヨコヤマ ワクイ)

東京ベイ・浦安市川医療センターの救急集中治療科から来ました横山和久と申します。専門は救急ですが、光が丘病院では内科病棟や救急外来を担当させていただきます。地域の皆様のお役に立てよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合診療科 野澤 祥吾 (ノザワ ショウゴ)

平成31年4月より総合診療科で後期研修として勤務をさせて頂いております野澤祥吾と申します。埼玉医科大学病院で2年間の初期研修を終えたばかりで経験も浅い若輩者ではございますが、少しでも早く地域の方々や病院に貢献できるように内科医として研鑽を積ませていただきました。よろしく申し上げます。

放射線科 林 貴菜 (ハヤシタカナ)

平成31年4月より練馬光が丘病院放射線科に着任いたしました林貴菜と申します。地域の医療に少しでも貢献できましたら幸いです。何卒よろしくお願い致します。

放射線科 白田 剛 (シロタ ゴウ)

平成31年4月より放射線科に赴任しました白田剛と申します。東京大学医学部附属病院、公立昭和病院、NTT東日本関東病院などで、画像診断およびIVRの修練をして参りました。全身を診ることができるgeneralな放射線科医を目指し、今後も精進し、地域の医療に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

※総合診療科は院内標榜です。